「高崎プライド」～心と形を整える～

令和２年９月２５（金）　ＮＯ１５　文責　木下　文秋

他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる

私が３年生の担任をした時の話です。その生徒（彼）は宿題を忘れたり提出物が遅かったりすることが多く、日記にも「今日は疲れた」とか「今日は雨が降った」くらいのことしか書いてこない生徒でした。入試の時期に入り、受験票の下書きの練習をするために、受験票のコピーに志望校と志望学科を書いて翌日提出することになっていましたが、彼は白紙のまま提出してきました。「行きたい高校がないし、どうして高校に行くのか分からない」と言うのです。

私は彼に高校に進学する意味を「自分の将来に専門的な知識や技術を生かすため」だと諭しました。しばらくして「今の成績でいける所なら行ってもいい」と言って来たので、その生徒のことをもっと理解することにしました。話をしようとすると嫌がりますが、それでも話をするうちに「自分は何もできないし、ダメな人間だから高校に行く意味がない」そんな話をしてきました。恐らく彼のような考えを持っている人間はたくさんいると思います。むしろ「自分は天才だ」と思う人がいるでしょうか。私だって自分のことをダメな人間だと思うことが多々あります。なぜなら、自分の醜さや弱さを知っているからです。他人には決して見せたくない一面を皆持っていると思います。しかし、考え方や努力次第で、自分自身を変えることができるはずです。私は「感情的になることは決してプラスにはならない」という言葉を大事にしています。小学５年の担任の先生からいただいた言葉です。当時は何のことかさっぱり分かりませんでしたが、今はとても心に響いています。その言葉を大事にしているわけは「感情的になってしまう失敗」をやっぱり今でも繰り返しているからです。でも、そんな繰り返しで少しでもましな大人になろうと修行しています。人として大事なことは、とりあえず行動してみる、やってみることであって、それがうまくいくかどうかは関係ないように思います。まずは行動に移すことが重要で、そうでなければ失敗すら生まれません。他人と過去を変えることはできないけれども、自分自身と自分の未来はどうでも変えることはできるはずです。話は戻り，彼は結局、都城農業高校に進学して、何度も母校の中学校にヨーグルトやイチゴジャムの販売に来てくれました。「高校は楽しいか」と尋ねると、とてもいい笑顔を返してくれました。